

「訪問看護で注射器等を安全に廃棄できる携帯用医療廃棄物容器の開発」

看護学科 福井幸子

研究背景・目的

針刺し予防に向けて携帯用医療廃棄容器を完成させ、医療施設で使用している従来の携帯用廃棄容器と比較して、使いやすさと安全性に関するデータ収集を行い、訪問看護や在宅医療に求められる携帯用廃棄容器の特徴を明らかにする。

研究方法

展示会出展時に、看護職や看護学生、その他医療関係者に携帯用医療廃棄物容器購入の選択条件についての回答を得るとともに、商品プロトタイプ2号の使用方法を説明し、実際に使用してもらい、安全性、利便性、携帯性等について回答を得る。

研究成果

平成29年4月、看護未来展2017に商品プロトタイプ2号を出展し、来場者124名に使用感についてアンケートを実施した。その中から現職看護師71名の結果を抽出したところ、携帯用医療廃棄物容器購入の選択条件で最も高かったのは「安全面」66名(93.0%)であった。商品プロトタイプ2号の「安全面」「操作の簡便性」は高かったが、「携帯しやすさ」は課題が残った(回答者69名)。軽量化を諮りながらも、安全性を損なうことがないよう、空アンプル収納スペースの削除と容器の縮小化を実施し、商品プロトタイプ3号を作成した。3号を基に商品としてのデザイン性と汎用性を考慮し、マーケティング調査を並行し、商品化を図っていく。

【商品プロトタイプ2号】の特徴

①2重の安全構造

: 密封容器に入れること、針先を耐貫通性器材で覆うことで、翼状針廃棄時の跳ね返りによる針刺し予防にも対応する。

②針先を覆って次の行動へ移る

: 点滴や静脈注射等終了後、抜針した針を容器の耐貫通性器材に真っ先に刺すことで、想定外の事態が患者に発生しても、安全を確保してから次に行動できる。

③容器の中身が見える

: 密封した状態でも容器の中身が見えることで安全性を確保した。

④廃棄物に触れずに廃棄

: 素手で廃棄物に触れることなく、事業所内にある回収容器に使用済注射器と空アンプルを分別して廃棄できる。



商品プロトタイプ2号
(H29.3西山製作所作製)

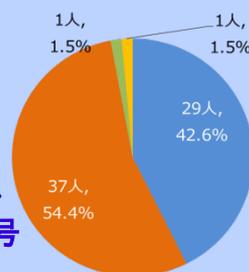


図 安全面

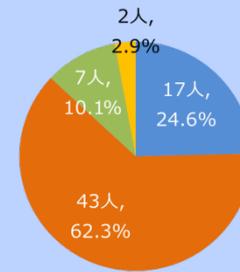


図 操作の簡便性

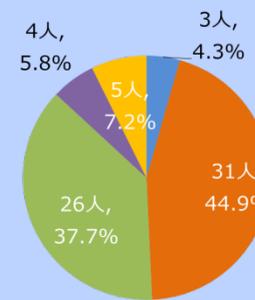


図 携帯しやすさ

■ 大変良い ■ 良い ■ あまり良くない ■良くない ■ どちらとも言えない